



Title	フィールドワークの概要
Author(s)	野間, 純平
Citation	阪大社会言語学研究ノート. 2013, 11, p. 1-4
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/24762
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

フィールドワークの概要

野間 純平

1. はじめに

『阪大社会言語学研究ノート』第11号となる本号では、特集として「西土佐フィールドワークの報告」を掲載する。この西土佐フィールドワークというのは、高知県四万十市西土佐地域のことばの実態を明らかにすることを目的として、2011年度および2012年度に「社会言語学（特殊）演習」において行われた方言調査である。本誌では、その結果報告を行う。ここでは、そのフィールドワークの概要を説明する。以下では、まず2節ではフィールドとなった高知県四万十市西土佐について概説し、3節では調査概要を述べる。

2. フィールドの概要

今回の調査におけるフィールドは、高知県四万十市西土佐の大宮地区と奥屋内地区である。この地域は、かつては高知県幡多郡西土佐村という行政区分だったが、市町村合併により2005年に中村市と合併し、四万十市となった。日本最後の清流と言われる四万十川が流れしており、豊富な自然や温暖な気候に恵まれている。

中でも、本調査のフィールドとなった大宮地区と奥屋内地区は山の中に位置し、その面積の多くが森林である。主要産業は農業で、住民の多くが高齢者の過疎地域だが、住民資本の株式会社「大宮産業」が設立されるなど、住民による地域の活性化の取り組みが盛んな地域でもある。

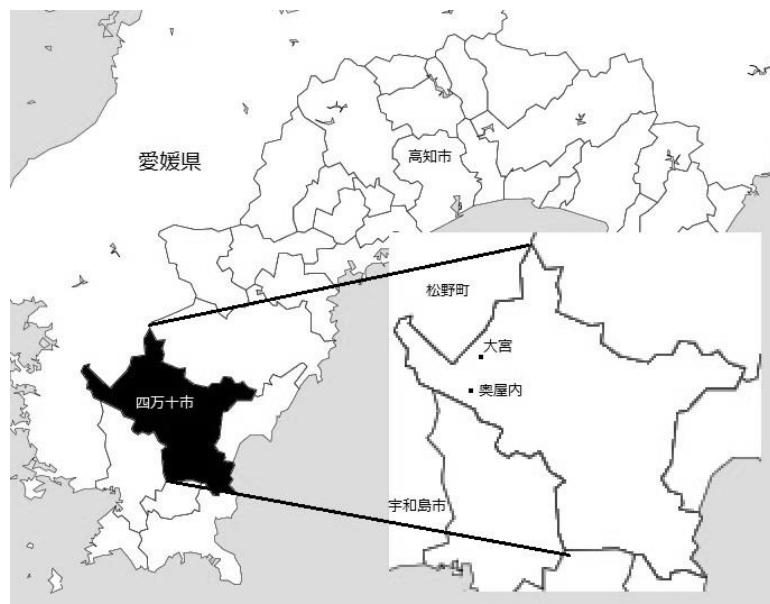


図1 西土佐大宮・奥屋内の位置

3. 調査の概要

本節では、2011年7月および2012年7月に行った調査の概要を述べる。以下、調査時期（3.1節）、調査員（3.2節）、調査項目および調査方法（3.3節）、インフォーマント（3.4節）についてそれぞれ述べる。

3.1. 調査時期

演習としての調査は2011年と2012年の2度に渡って行った。具体的な時期は以下のとおり。

第1回調査：2011年7月16日、17日

第2回調査：2012年7月27日、28日

この他にも、2011年9月に酒井と野間が追加調査を行っている。

3.2. 調査員

調査員は以下のとおりである。いずれも大阪大学の学生および修了生である。

高木千恵（教員）、酒井雅史、白岩広行、白坂千里、武井紀子、張允娥、野間純平、バーバラ・カーター、原田茜、韓娥凜、平塚雄亮、松井祐治、水野恭司

各調査員の参加年度と担当項目については、次節を参照されたい。なお、調査には参加していないが、調査前の調査票作成にのみ参加した学生は以下のとおりである。

大矢智恵、福居亜耶、山口華奈

3.3. 調査項目および調査方法

調査する言語項目については、演習の参加者が先行研究や各自の興味などをもとに、次ページの表1のように決定した。各調査項目の詳細については、それぞれの報告を参照していただきたい。今号ではこのうち準体助詞、逆接表現、行為指示表現、フォリナー・トークの報告を掲載する。それ以外の報告については、次号以降に掲載する予定である。

調査方法は、フォリナー・トークを除いて、調査票を使って調査文を方言に翻訳してもらう面接調査である。いずれも調査票の作成・検討を演習で行っており、上で述べたように、調査には参加していないが、調査票の作成に参加している者もいる。フォリナー・トークについては、調査者とインフォーマントとの会話を録音し、それを分析するというものである。一般的に方言調査において取り上げられる項目ではないが、調査員に留学生がいるという強みを生かした調査項目と言えよう。

また、表1に示した項目以外にも、インフォーマント同士による自然談話の収録も行っている。この談話の文字化資料および談話を用いた分析は、次号以降に掲載する予定である。

表1 調査項目および班構成

	調査項目	調査票作成	調査員
2011年	活用	白岩・水野	韓・水野
	準体助詞	野間	野間・高木
	屈折接辞ト一	平塚・高木	平塚・高木
	逆接表現	高木・武井	武井・野間・水野
	行為指示表現	酒井	酒井
	フォリナー・トーク	なし	カーター・白坂・韓
2012年	活用	水野・大矢	韓・水野・平塚
	コピュラ	白坂・カーター	白坂・カーター
	否定形式ヅクニ	高木	高木
	屈折接辞ト一	平塚	平塚
	文末詞ニ	松井・山口・野間	松井・原田
	逆接表現	野間	野間・高木
	行為指示表現	酒井・張・福居	酒井・韓・張

3.4. インフォーマント

本調査では、インフォーマントとして、大宮地区と奥屋内地区の高年層話者に協力していただいた。インフォーマントの紹介に当たっては、「四万十市社会福祉協議会西土佐支所」の今城久枝さんおよび「特定非営利活動法人 NPO いちいの郷」の岡崎恵司さん(理事長)と太田成人さん(副理事長)をはじめとするスタッフの皆様の協力を得た。また、調査場所として「いちいの郷」の建物をお借りした。

2011年と2012年の調査にご協力いただいたインフォーマントの情報を、次ページの表2に示す。どのインフォーマントに対してどの調査を行ったかに関しては、それぞれの報告を参照されたい。

表2 インフォーマント情報

ID	地点	性別	生年	年齢	居住歴
AAF	大宮	女性	1924	86	0-86:大宮
ABF	大宮	女性	1926	84	0-84:大宮
ACF	大宮	女性	1928	83	0-19:大宮、19-20:香川県、20-83:大宮
ADF	大宮	女性	1929	82	0-82:大宮
AEF	大宮	女性	1931	80	0-80:大宮
AFM	大宮	男性	1932	79	0-79:大宮
AGM	大宮	男性	1935	76	0-16:大宮、16-18:鬼北町、18-76:大宮
AHM	大宮	男性	1936	74	0-74:大宮
AIM	大宮	男性	1941	71	0-71:大宮
AJM	大宮	男性	1923	90	0-17:大宮、17-19:広島県、19-23:中国(蘇州)、23-90:大宮
AKM	大宮	男性	1939	72	0-72:大宮
ALM	大宮	男性	1941	70	0-15:大宮、15-18:中村、18-70:大宮
AMF	大宮	女性	1945	66	0-2:津賀、2-15:大宮、15-18:中村、18-66:大宮
ANF	大宮	女性	1946	65	0-65:大宮
AOF	大宮	女性	1926	86	0-17:大宮、17-19:愛媛県、19-86:大宮
APF	大宮	女性	1931	79	0-79:大宮
AQF	大宮	女性	1935	77	0-25:須崎、25-77:大宮
ARF	大宮	女性	1942	70	0-70:大宮
ASF	大宮	女性	1950	62	0-16:大宮、16-19:岡山県倉敷市、19-62:大宮(西土佐他地域での居住歴あり)
ATF	大宮	女性	1927	85	0-85:大宮
BAF	奥屋内	女性	1921	89	0-89:奥屋内
BBF	奥屋内	女性	1928	82	
BCF	奥屋内	女性	1928	82	0-23:口屋内、23-82:奥屋内
BDM	奥屋内	男性	1935	76	0-76:奥屋内
BEF	奥屋内	女性	1911	101	0-101:奥屋内

年齢は調査時のもの。2年とも調査にご協力いただいた場合は初回調査時の年齢を記している。

IDの1文字目は地点を表しており、Aが大宮、Bが奥屋内を表す。3文字目は性別(M:男性、F:女性)を表す。

空欄は確認できていないところ。

4. おわりに

以上、西土佐フィールドワークの概要を述べた。今号では、その結果報告として、準体助詞、逆接表現、行為指示表現、フォリナー・トークの報告を掲載する。今号で掲載した以外の調査項目については、次号以降、もしくは学会や雑誌論文などで順次発表していく予定である。

また、今回のフィールドワークを行うにあたって、大宮および奥屋内の皆様には大変お世話になった。お話を聞かせてくださったインフォーマントの皆様はもちろん、「いちいの郷」を紹介してくださった社会福祉協議会西土佐支所の今城さんや、インフォーマントの紹介のみならず、場所を提供してくださったり、地元のお祭りなど、調査以外でも地元の方々と交流を持つ機会をくださったりした「いちいの郷」のスタッフの皆様に重ねて感謝申し上げる。本誌がフィールドワークの成果報告として、地元の皆様に少しでも還元できれば幸いである。